

6-3					
主題		「その人らしく」を支援する“ナラティブ・モデル”			
副題		102歳のチャレンジ			
キーワード 1	個別ケア	キーワード 2	ソーシャルワーク	研究(実践)期間	6ヶ月

法人名・事業所名	社福) 恵比寿会 特別養護老人ホーム フェローホームズ仲間の家
発表者(職種)	佐藤絵里香(生活相談員)、赤松鈴二(介護職員)
共同研究(実践)者	山田一美(介護職員)、他

電話	042-523-7601	FAX	042-523-7605
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	1992年に立川市に開設した従来型多床室の特養です。2フロア100名の方が小グループごとに生活されています。昭和記念公園の南側に位置し、緑あふれる環境のもと、『ひとつは全てのために、全てはひとつのために』という法人理念に基づいて、家庭的な雰囲気大切に介護を行っています。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

「365日、わくわくいきいき誰でも笑顔に誰でも仲間になれる家づくりをします」という仲間の家のビジョンのもと、誰もが生きがいをもって暮らすことができるために個別ケアの実践にフォーカスし、仲間の家で暮らすご利用者のQOLと幸福感の向上を目指している。

1週間単位での総合記録シートを用いて利用者の状態を総合的にとらえ、多職種によるダブルチェックにより、健康状態把握、体調悪化予測などとフィジカルな視点での取り組みは行っている。しかしご利用者が語るこれまでの人生の物語や、その人の生き方・考え方を大切にする視点“ナラティブ・モデル”について、日常の支援の中での展開は弱かった。

ご利用者の個々のニーズ＝「やりたいこと」を、ご家族にも協力いただいて、その方の人となりや人生歴からご本人のニーズを把握することができるのではないかと考えた。そして「叶えたいこと」を実現するために多職種で取り組むことにした。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

個々の人となりを知り、叶えたいことを実現することで、利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れるようになることと、従来型特養の特徴・強み(個別ケアと施設ケアをバランス良く提供し、集団の中で個人の能力や個性を發揮していく)を活かすことを目的とした。

また、ご利用者の生き方・考え方を大切にする視点“ナラティブ・モデル”でとらえたところ、これまでのご利用者以外の人とのつながりや精神的な支えによって生活が豊かになっていることにも気づき、ホームでの生活に楽しみを見出し実感してもらうためには、ご本人だけでなくご家族や他のご利用者とともに取り組みに参加する必要がある。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ご利用者が語るこれまでの人生の物語を書きつづる、仲間の家独自の「私の気持ちシート」「人生の歩みシート」を作成し、ご本人やご家族から趣味や嗜好、人生歴など様々な情報を収集した。
- ご本人との関わりの中でやってみたいことをうかがうほか、入所前に利用していた法人内のデイサービス職員に、ご本人が好きだったことや、やってみたいと話していたことを教えてもらった。
- 収集した情報から、「うどん打ち」が得意で「皆に食べさせてやりたい」と話されていたことを知った。
- 担当職員が中心となってご本人の意向を確認し、意向をケアプランに反映させた。
- サービス担当者会議(ケア会議)の場でご家族を含めて多職種でケアプランを共有し、「うどん打ち」をして皆に食べてもらうことがご本人の叶えたいことだということを確認した。
- 叶えたいことの実現に向けて各専門職が現状の評価をし、健康管理やリハビリなど必要な取り組みを検討した。
- 今回の「うどん打ち」のチャレンジに向けては、ご家族にも一緒に参加してもらうため、準備や日程の調整を同時進行で行った。さらに「皆に食べさせてやりたい」との思いもくんで、フロアの他のご利用者には試食をしていただくことにした。

《4. 取り組みの結果》

- 計画の実行中に、ご本人が肺炎で入院されてしまい計画が中断したが、退院後に再アセスメントを行い、多職種が協働してさらにご家族も参加して取り組みを再開することができた。
- 「うどん打ち」当日、ご本人は自前の前掛けを身に着けて、自らできる工程は行い、他は娘さんと一緒に、職員には指示を出しては手伝わせ、まるで職人肌の堂々とした風貌であった。
- 102歳と高齢のため、娘さんと職員らの協力があったうどんは完成し、他のご利用者に手打ちうどんをふるまえたことは、ご本人はもちろんであるが周りの人たちも充実した時間を過ごせ、幸せなひとときになった。

《5. 考察、まとめ》

- 個々のニーズ＝「やりたいこと」を引き出すためには、ご利用者が語るこれまでの人生の物語や、その人の生き方・考え方を大切にする視点“ナラティブ・モデル”が重要であり、それはご利用者の「エンパワメント(主体性)」「ストレングス(強さ)」を引き出すものである。
- 従来型特養の集団の中で、ご利用者個人の能力や個性を發揮していく機会となった。
- 職員チームで成功体験を経験することは、職員も前向きな気持ちになって次の取り組みにチャレンジする機会となる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- 「ソーシャルワーク論」(空閑浩人著) ミネルヴァ書房

《8. 提案と発信》

ソーシャルワークの実践のあり方としてのエンパワメント、ストレングス、ナラティブの視点が、高齢者福祉施設の現場でも重要である。